

**資本コストや株価を意識した経営の
実現に向けた対応
(2025年11月 アップデート)**

株式会社オーハシテクニカ

2025年11月28日





資本収益性及び株価に対する現状分析

- ① コロナ禍の2020年度に大幅な減収減益となって以降、売上高は為替換算の円安効果もあり、回復基調にある。
- ② 営業利益については、原材料価格・仕入価格の高騰、人件費の上昇、及び中国事業での大幅な減収に伴い、2023年度まで低下。2024年度は販売価格改定の進捗、製造部門の生産性回復が寄与し、増益に転じた。
- ③ ROEは利益水準の低下に伴い、2019年度の8.0%から2023年度の2.8%まで低下したが、2024年度は4.0%に回復。
- ④ 株価は2024年11月に本計画を開示後、上昇基調にはあるが、自動車業界全体に対する不透明感も漂う中、当社の成長戦略に対する市場評価も十分とは言えず、株価上昇は限定的である。(2025年3月末：1,841円、2025年9月末：2,180円)。
- ⑤ 2024年度のPBRは、ROE：4.0%、PER：15倍を反映し、0.6倍に留まる。(ROE 4%×PER 15倍→PBR 0.6倍)

1

現状分析②

PBR (株価純資産倍率) = (1) ROE (自己資本当期純利益率) × (2) PER (株価収益率)

	ROE	ROA						財務レバレッジ		
		売上高当期純利益率 (%)			総資本回転率 (回)			財務レバレッジ (倍)		
2019年度	8.03%	当期純利益	2,460	6.85%	売上高	35,905	0.85	総資産	42,154	1.38
		売上高	35,905		総資産	42,154		純資産	30,629	
2020年度	4.91%	当期純利益	1,540	5.17%	売上高	29,782	0.70	総資産	42,249	1.35
		売上高	29,782		総資産	42,249		純資産	31,383	
2021年度	5.57%	当期純利益	1,791	5.50%	売上高	32,545	0.76	総資産	42,745	1.33
		売上高	32,545		総資産	42,745		純資産	32,163	
2022年度	3.76%	当期純利益	1,283	3.67%	売上高	34,974	0.80	総資産	43,501	1.28
		売上高	34,974		総資産	43,501		純資産	34,100	
2023年度	2.80%	当期純利益	1,006	2.57%	売上高	39,212	0.84	総資産	46,522	1.25
		売上高	39,212		総資産	46,522		純資産	37,260	
2024年度	4.00%	当期純利益	1,522	3.80%	売上高	40,017	0.82	総資産	48,683	1.23
		売上高	40,017		総資産	48,683		純資産	39,653	

↓	↓	↓
収益性の回復が途上	改善傾向にあるが、総資本(総資産)の増加に対し売上高の増加が追いついていない ⇒【資産効率改善】が必要	自己資本比率が高く、純資産増加が続いている ⇒【財務レバレッジを活かせていない】

⇒ROEは回復傾向にあるが、当社資本コスト(8%程度(WACC*))に対し、4%程度の**マイナスのROEスプレッド(ROE-資本コスト)**が生じている ⇒ **資本コストに見合った企業価値を生み出せていない状況にある**

※CAPM理論に基づく

(2) PER = 株価 ÷ 1株当り当期純利益

⇒当社の成長性に関する市場の評価は十分とは言えず、今期の予想PERは13.7倍(9月末株価、今期業績)に留まっている。
収益力の回復を継続すると共に、当社の事業戦略、成長戦略に対する市場評価を高めるべく、IR活動の強化に努めている。

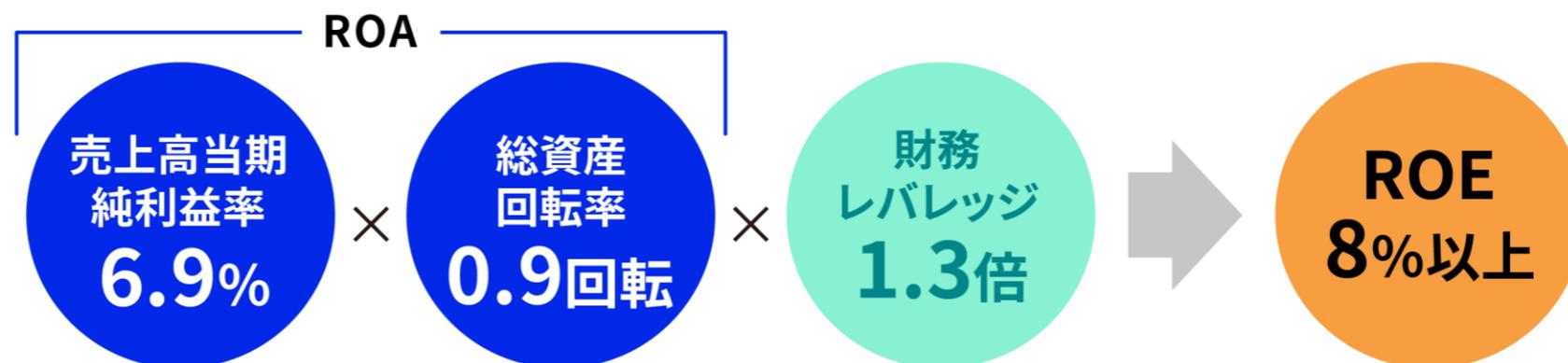
① ROE改善策

目標 8%の早期回復（「中期経営計画」“Mission2025+2”の設定目標）

→ **資本コスト（8%程度）**を上回るROEの早期実現

ROA 改善	成長 戦略	<ul style="list-style-type: none"> → 電動化により新たに生じる得意先ニーズに対応し、“圧入プロジェクション接合”、“精密プレス技術”を始めとする既往独自技術により商品化 → 既往独自技術の更なる進化、新たな加工技術の開発による競争力の強化 → 独自の技術力を有する新たな調達先との連携による、新たな加工技術の開発 → 積極的な設備投資によるグローバル・ファクトリー体制の強化（日本、米国、タイ、中国） → 優れた加工技術を有するメーカーとの新たな提携・M&Aの推進
	収益力 回復	<ul style="list-style-type: none"> → 得意先、調達先との「適正な取引」確保による収益性の改善 → 国内外製造部門の生産性向上、省人化・自動化による人材不足・賃金上昇への対応 → 「社会的価値の創造」に資するESG経営を推進しつつ、適切な経費コントロールの実施
	資産効率 改善	<ul style="list-style-type: none"> → 投資戦略の採算性強化、設備稼働率の向上 → 政策保有株式の縮減、余資の効率的運用等、資産効率のアップ → 総資産増加の抑制
財務レバレッジ改善	<ul style="list-style-type: none"> → エクイティ・コントロールの推進 → 配当、自己株式取得等のタイムリーな検討・実施による純資産水準の適切なコントロール 	

2027年度末
目標水準



②PER改善策

(赤字：過去1年間の実施事項)

株主還元の強化

- 積極的な配当方針 ①DOE：2.8%以上、②配当性向：35%以上、③「累進配当方針」
- 適切な時期・規模での自己株式取得の検討継続
- 「株主優待」の拡充（2025年9月末基準で実施）

IR活動の強化

- 機関投資家との対話の強化：IRミーティングの開催強化
- 個人投資家との接点の強化：個人投資家向け会社説明会を開始（2025年10月）
- 「株主との対話」を通じて得られた意見を取締役に定期報告し、CGC報告書で開示

その他事項

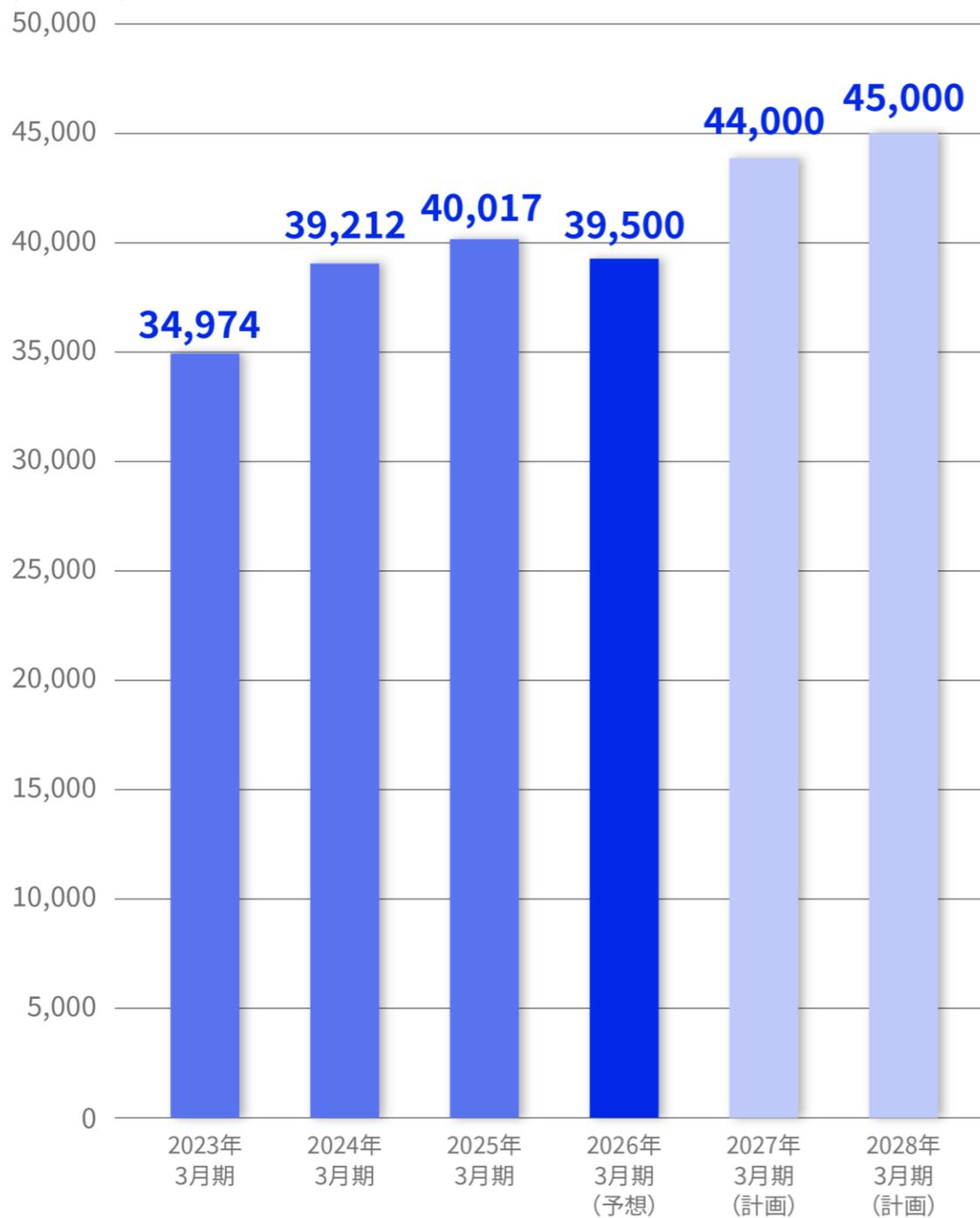
- 役員への株式報酬制度の導入推進
- 従業員への株式インセンティブ制度の導入検討
- 流通株式数の増加：株式分割の実施（2025年12月末予定、1株⇒2株に分割）



着実なROE改善策と積極的なPER改善策の実施により、
早期のPBR1倍達成を目指す

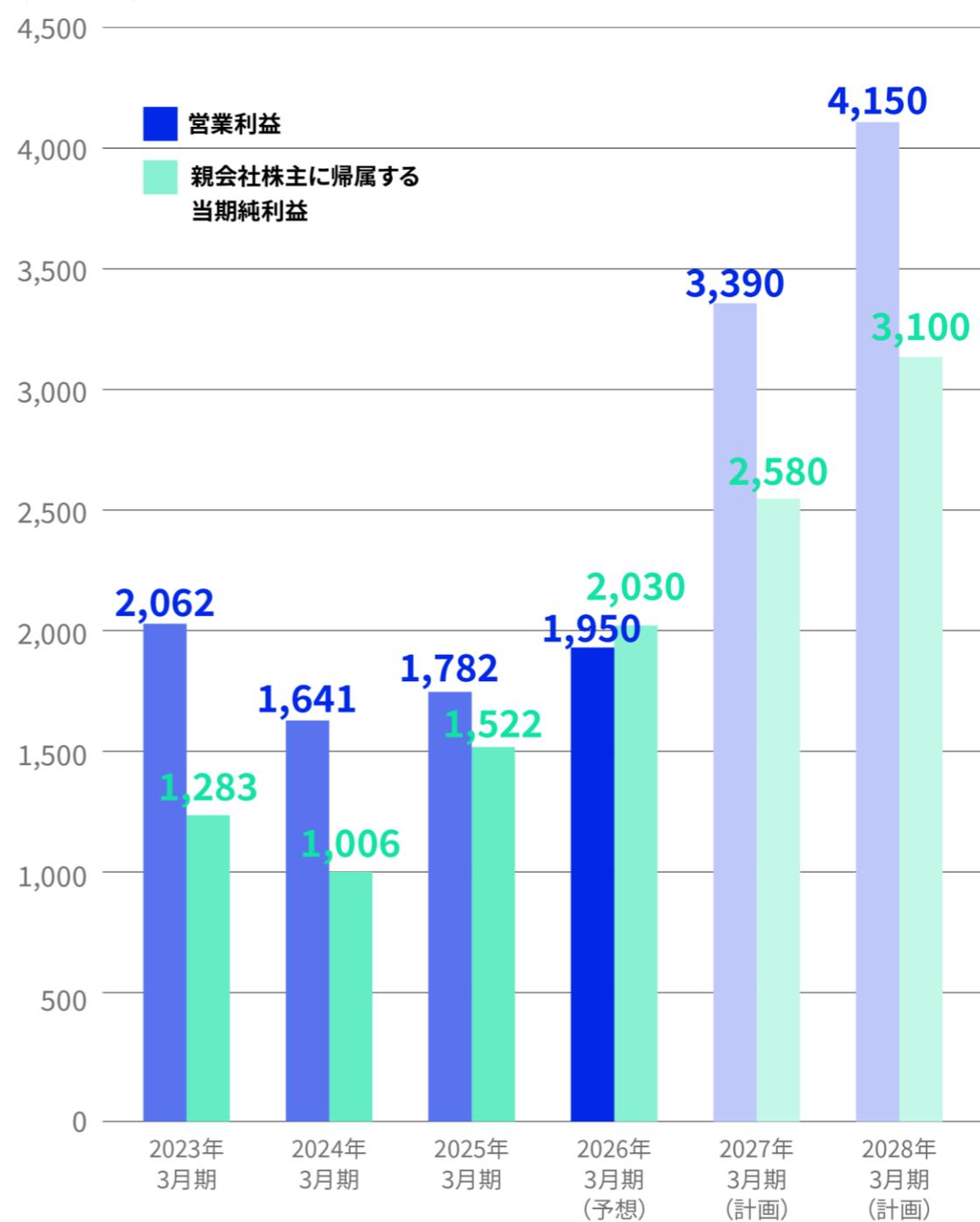
売上高

(単位:百万円)



営業利益・親会社株主に帰属する当期純利益

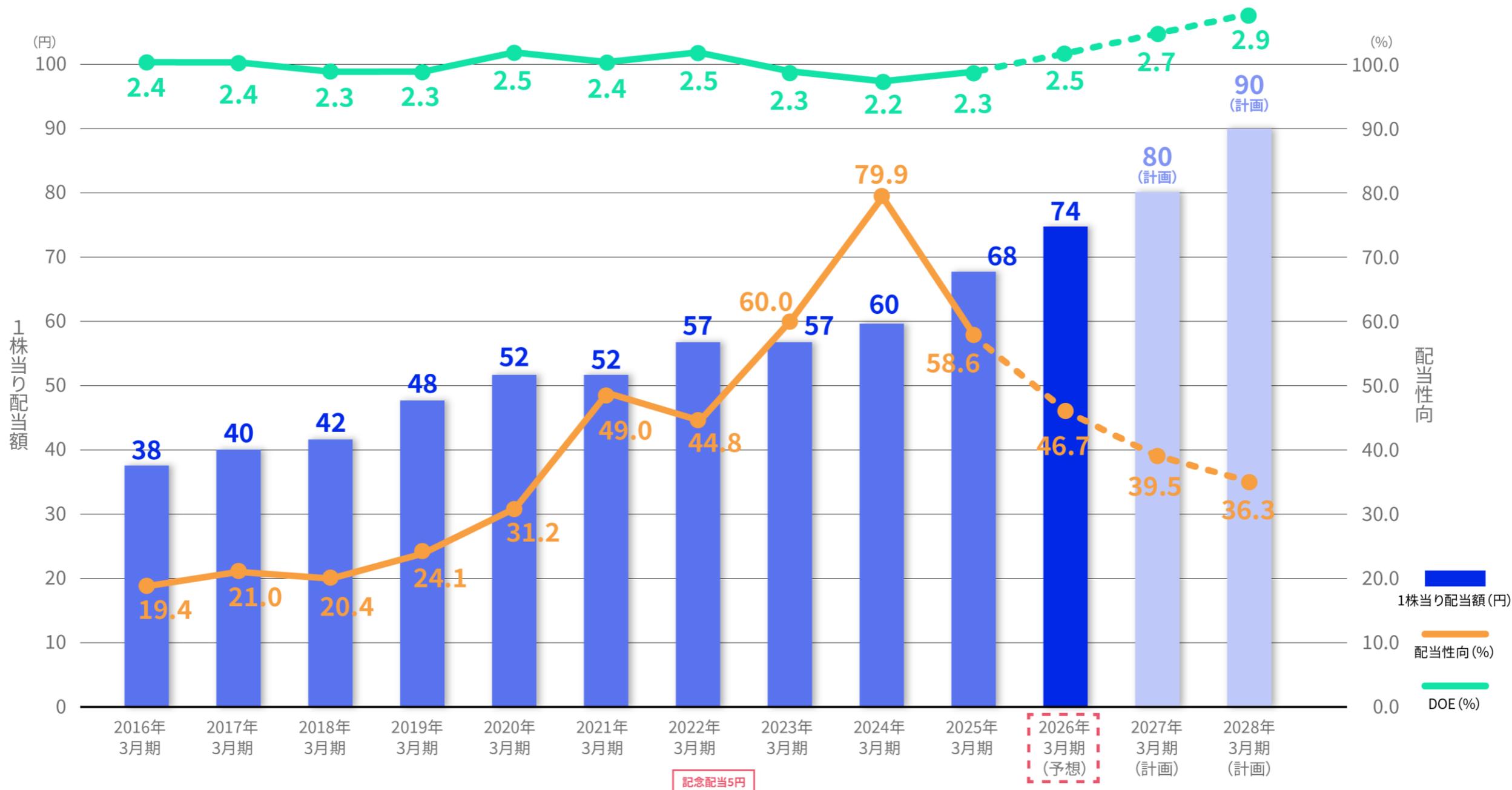
(単位:百万円)



4

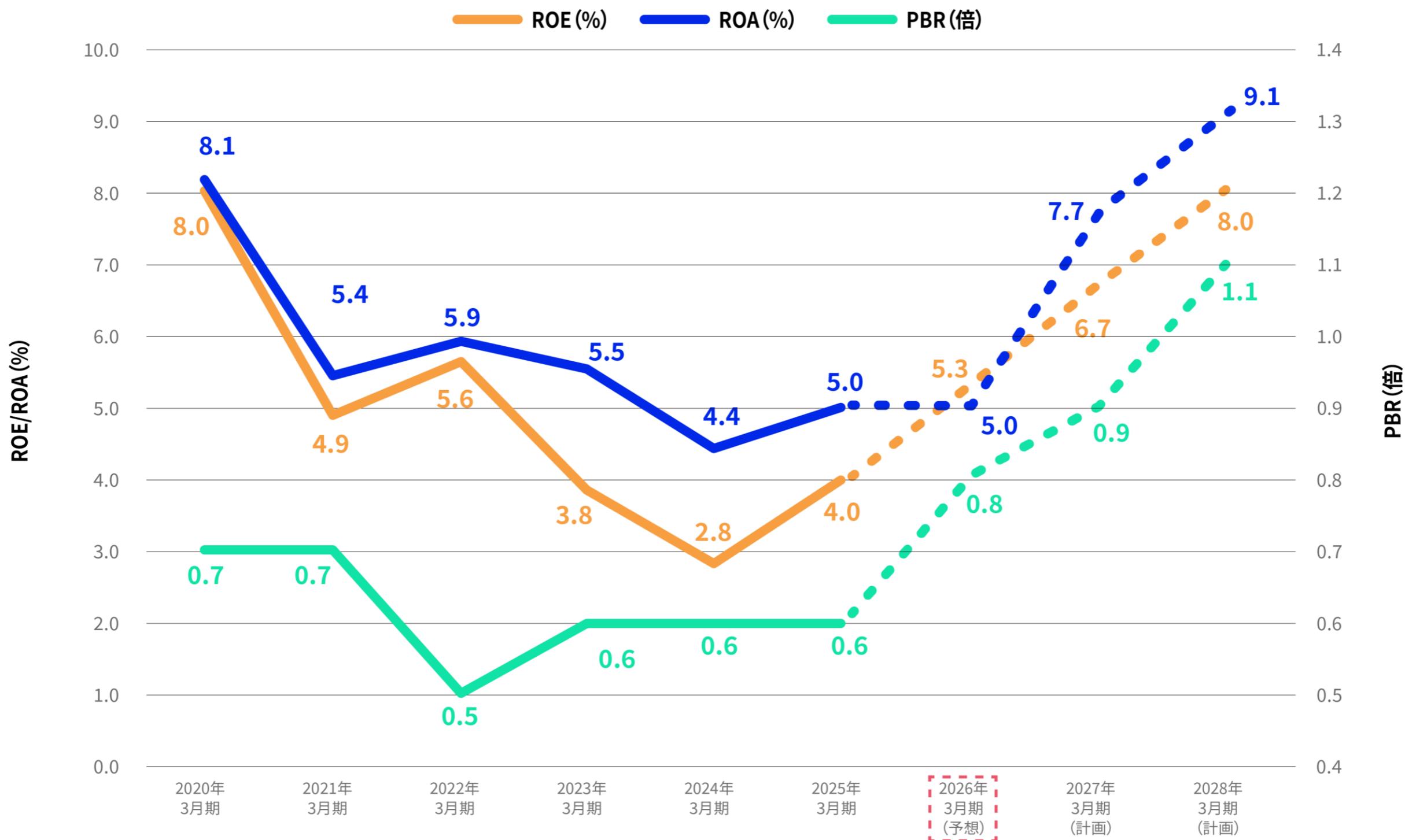
株主還元指標推移・計画

配当実績推移・計画



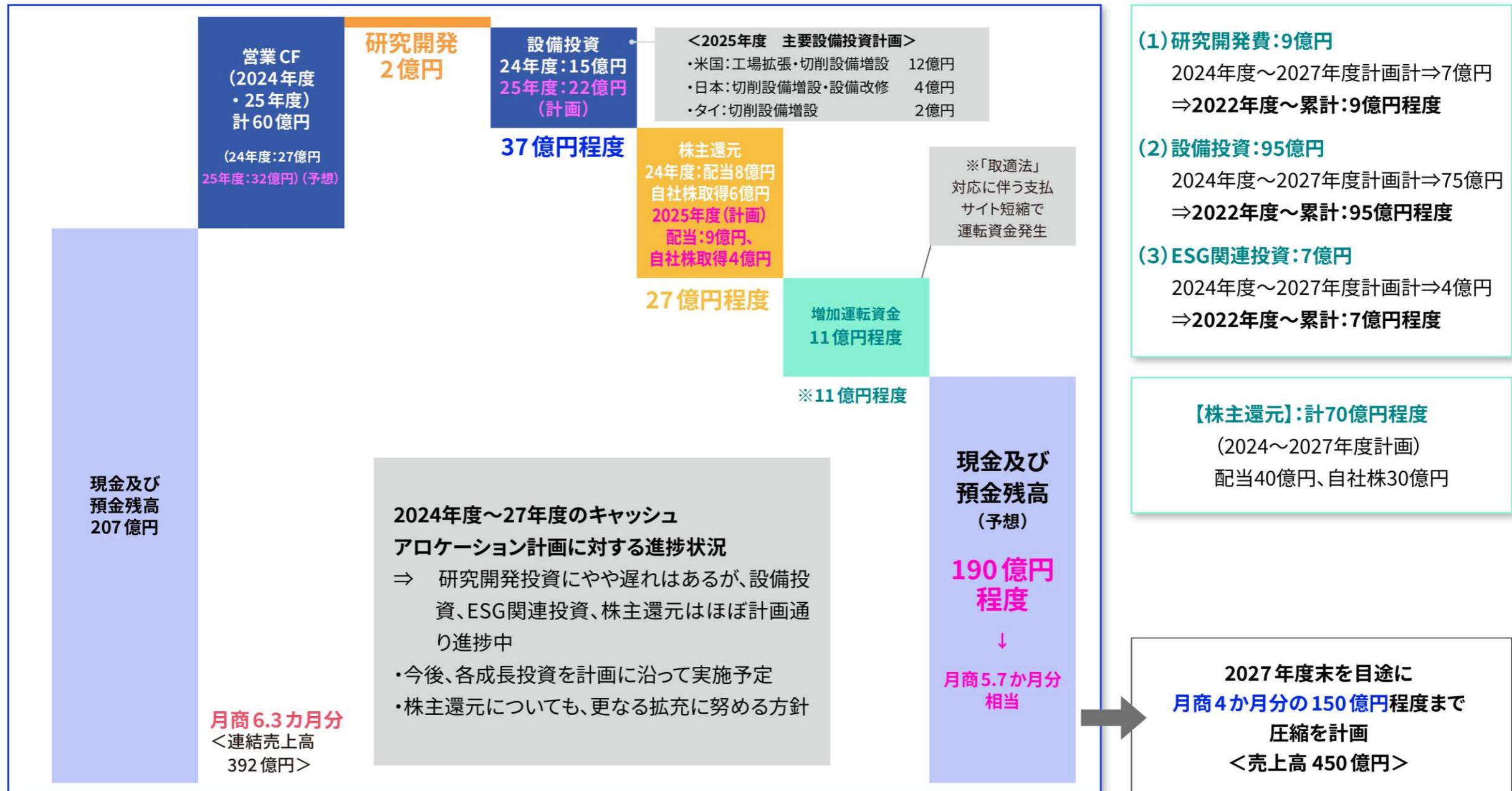
過去11年間で着実な増配に努めてきたが、今後収益力の回復と共に“累進配当方針”に基づき
持続的な増配と適時・適切な自己株式取得を検討し、株主還元の拡充に努める

収益性の回復により、ROE 8%の回復、PBR 1倍の達成を目指す



2024年度~2025年度(2カ年の見込)

中計定量目標(6カ年)



2023年度末 (2024/3期末)

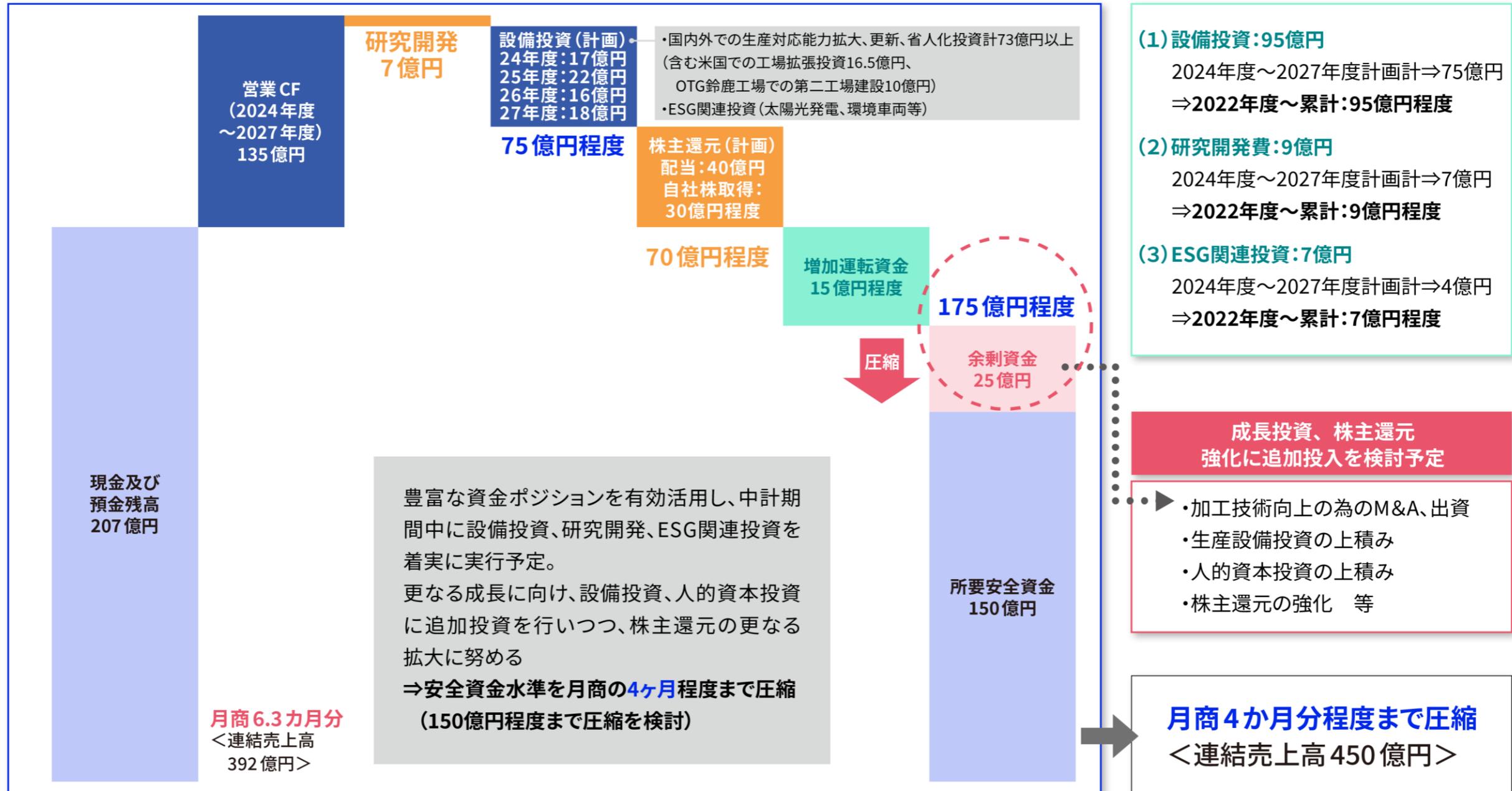
Cash In

Cash Out

2025年度末 (2026/3期末) <見込>

Mission2025+2 (~2027年度) 期間

中計定量目標 (6力年)



2023年度末 (2024/3期末)

Cash In

Cash Out

2027年度 (2028/3期末) <計画>

資料中の目標値・計画値は業績予想値ではありません。

また、資料中の将来に係わる一切の記述内容は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断によるものですが、既知・未知のリスクや不確実な要素が含まれています。

さまざまな要因の変化により、実際の結果はこれらの記述内容と大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

株式会社オーハシテクニカ